

令和8年度 町民大学・コミュニティセンター講座一覧<NO.1>

分野	演題	講師	職名	内容
歴史	讃岐円座 ～讃岐ブランドのさがけ～	西岡達哉	高松短期大学ビジネスデザイン学科講師	出土品や文献資料を手がかりとして、「讃岐円座」が古代から近世にかけての皇室、朝廷、貴族、大名の必需品として珍重され、全国に広く知られるブランド品になった足跡を辿ります。
	再考。源平屋島合戦 —屋島は本当に古戦場なのか—	西岡達哉	高松短期大学ビジネスデザイン学科講師	『平家物語』に記述のある源平合戦の戦場が「屋島」でなく「八島」であることに注目するとともに、考古学的な視点から現在の「屋島」が古戦場として妥当な場所か否かについて再検討します。
	「香川県の独立の父」中野武當を独立運動に駆り立てた歴史的な背景	西岡達哉	高松短期大学ビジネスデザイン学科講師	中野武當は、香川県を愛媛県から分離したことで「香川県の独立の父」と呼ばれています。幕藩体制の「しこり」によって行き詰まっていた県の運営を打破しようとした中野武當の労苦などに思いを馳せます。
	古代の朝鮮式山城とは何か —屋嶋城(やしまのき)vs.城山城(きやまのき)—	西岡達哉	高松短期大学ビジネスデザイン学科講師	古代の朝鮮式山城は、白村江(はくすきのえ)の戦い後に、国家防衛のために一斉に築城されたと言われてきました。屋嶋城と城山城の比較研究を通して判明した朝鮮式山城の築城理由の真実に迫ります。
	「讃岐三白」は明治中期の通語だった —「讃岐三白」誕生の真相—	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	香川県の代表的な産物として、現在は「讃岐うどん」が大家有名となりましたが、かつては「讃岐三白」という言葉がよく使われていました。一般に江戸時代から讃岐では「讃岐三白」が盛んに作られたと伝えられていますが、実はそうではなく、この「讃岐三白」という言葉が、一体いつ頃から使われ始めたのか、また、なぜその頃から使われ始めたのか、などについて、その時代背景を含めて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。
	香川の特産品開発のヒント —将軍への献上品と讃岐の特産品—	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	江戸時代には、各藩の大名が毎年季節を決めて領内の産物を将軍家に献上していました。これを「時献上」として『大名武鑑』という書物にその産物名が記されています。また、江戸時代に編纂された『玉藻集』や『西讃府志』などの地誌類にも、野菜や果物など領内各地の特産品が載っています。これらを見ると、讃岐には江戸時代どのような特産品があったかが分かります。その中には、高松藩の三大名物野菜や平賀源内が絶賛した金毘羅生薬などがあり、讃岐の伝統野菜としてそれだけではない香川県の一つに挙げてもよい地域の宝物がたくさん出てきます。最後についていきたいと思います。
	大名家の交友関係と武家権礼 —高松松平家の場合—	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	江戸時代の大名の主仕事に「公辺動向と内外交際」というものがあります。将軍家や幕閣の政治動向を的確に把握するために、普段から親しい内外の大名との交際を通じて情報を収集して必要があったのです。高松松平家と親しい関係にあった大名家はどこか、また交際を深めるための献上・下賜権礼や服忌忌送儀礼はどのようなか、日本の贈答文化や慶応権礼の源流を辿りながら、現代における権礼の役割などについても一緒に考えていきたいと思います。
	栗林公園の歴史と文化	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	現在の栗林公園は、明治8(1875)年に県立公園として一般に公開され、昭和28(1953)年には国の特別名勝に指定されるなど、回遊式の大名庭園として今や日本が世界に誇る観光地となっています。しかし、それ以前の歴史については、まだ分かっていないところがありますが、皆さんと一緒に栗林公園の起源やその後の変遷などについて史資料をもとに考えてみたいと思います。
	「高松城下事件簿」にみる江戸時代の高松城下町	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	「高松藩御令條之内書抜」(讃岐高松藩初代藩主松平頼重〜9代松平頼重までの法令集)を通して、江戸時代の高松城下で、どのような事件が起こったか、また、当時の城下町の成り立ちや社会の仕組み、城下町高松での武家・町人の暮らしぶりや風俗の様子等を皆様と一緒に探ってみたいと思います。
	人はなぜ贈り物をするのか —中世讃岐武士の贈答文化事例を中心に—	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	中世社会の特質は、権威的・多層的で絶対的な地位を持つ支配者が存在しなかったことで、それ故に贈答文化が最も肥大化した時代だといえます。その中で讃岐の武士たちは、在地寺社の法会等の仏神事を通して連歌・猿楽・白拍子・簾・特産品など様々な贈答文化を行うことにより、在地支配の基礎となる族縁的(横の)と主従制的(縦の)人間関係を構築していききました。讃岐の代表的な国人である安富・香川・香西・香川・秋山氏などの事例をもとに皆様と一緒に探ってみたいと思います。
「香川県民の日」(分県独立記念日)の制定と「香川県民歌」	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	今から136年前の1888年(明治21年)12月3日に、香川県は愛媛県から分離独立して全国で最後の県として誕生しました。この香川県の分県独立運動に尽力した中野武當(たけなな)は、その功績によって「香川県独立の父」と呼ばれています。現在、全国では19都道府県民の日(「県民の日」と通称)を条例で制定して記念行事を行っており、香川県でも12月3日を「香川県民の日(分県独立記念日)」を条例制定して県民意識の高揚と図ろうとしています。他県では記念行事の中で県民統合の象徴としての県民歌が声高らかに歌われています。「香川県民歌」もそうあってほしいと願っています。	
讃岐の相撲人と力士の歴史	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	相撲の歴史は、古代は神事相撲、中世は武家相撲、近世は勳進相撲、近代は大相撲として発展してきた。相撲にはもともと魂鎮めの意味があり、讃岐における相撲の初出は、『日本書紀』皇極元年(642)7月22日条に、百済王子鸕鷀を前に健甕の相撲が行われたとある。平安時代には「相撲節(すまひのせち)」と称されて、毎年諸国より多くの相撲人が召集められて相撲と芸能が行われた。讃岐の相撲人については、『権記』長徳4年(998)2月17日条に額田連光の名がみえる。鎌倉時代には武人の間に盛行し、室町・戦国時代には「相撲取(すもうとり)」と呼ばれ、大名の邸内などで武士の身体鍛錬のために相撲が取り入れられた。江戸中期頃には勳進相撲や力士の呼称が定着し、讃岐の諸藩でも、特に丸亀藩主京極氏は相撲好きで知られた。近代には神風・琴錦・琴ヶ濱・若三杉・琴勇輝などが活躍した。讃岐香川の相撲人と力士の歴史について皆様と一緒に考えてみたいと思います。	
交通	高齢者への交通安全教育 (歩行者編・ドライバー編)	正岡利朗	高松大学経営学部教授	香川県警では、交通安全教育に役立つ動画教材シリーズを作成しています。このうち高齢者用の教材としては、歩行者編、ドライバー編が制作され、この監修にかかわっていますのでこの教材を用いた講義をすることができます。教材中には、「体操コーナー」等もあるので、講義室は、立ち上がりやすい程度のスペースをお願いします。
	運転についてのマナーアップ教育	正岡利朗	高松大学経営学部教授	悪いといわれている香川県の交通のマナーをどうすれば改善できるのか考えましょう。
援教別育支	特別支援教育って何?	山口明乙香	高松大学発達科学部教授	特別支援教育のことをちょっとのぞいてみましょう。地域の特別支援教育の仕組みや子どもたちのことについて学べます。
心理	コミュニケーション力を高めよう	織田幸美	高松大学発達科学部講師	コミュニケーション力を高めるためには、適切な社会的スキルを身につけることが大切です。行動理論をもとにして「話す・聴く」「心を伝える」などの上手な対人スキルを考え、体験しながら人と上手につき合うコツを学んでいきます。
コーチング	コーチングにおけるコミュニケーション ～組織を活性化させよう～	花城清紀	高松大学経営学部准教授	一人ひとりが積極的に組織に関わっていき、常に活気に満ちあふれ結束力が高い組織と、一部の人が組織に関わらずストレスがたまり、消極的な言動が多々見られるような組織のどちらが高い力を発揮して結果を出せることができるでしょうか?多くの人が前者の組織を選ぶと思います。本講座では、前者のような強い組織をつくるためのコーチングの技法について説明していきます。また、コーチングにおいて欠かせない多様な人々との的確なコミュニケーションについて学ぶとともに、リーダーシップあるいはフォローアップを発揮することで高い力を発揮できる組織を形成していく能力を身につけます。
地学	隕石から探る太陽系の起源	糸目真也	高松大学発達科学部准教授	太陽系の8つの惑星と小天体を紹介しながら、隕石をキーワードに太陽系形成のシナリオについて探求します。

